

平成29年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成30年3月30日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	住吉 和子
研究課題	看護ケアによる末梢血流改善の効果					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	住吉和子	看護学科・教授	成人看護学	総括・データ測定	
	分担者	山口三重子 荻野哲也 高林範子 浅井美穂	看護学科・教授 看護学科・教授 看護学科・助教 看護学科・助教	基礎看護学 病理学 基礎看護学 成人看護学	データまとめ データ測定アドバイス データ測定 データ測定	
研究実績の概要	<p>末梢血流を改善できる看護ケアが従来の看護ケアと比較して、健康指標（血圧、脈拍、皮膚温など）を改善することを検証し、健康回復に有効な看護ケアを開発する上での資料を得ることを目的とする。足マッサージや清拭が皮膚温血流や自律神経に影響を及ぼすことは証明されているが、指先マッサージおよび仰臥位のバスタオルのおき方による血流については明らかにされていない。平成28年度に我々は、学生を対象に指先マッサージやタオルのおき方で、肩こりが軽減し身体症状が緩和していることを報告した。今年度は「指先マッサージ」による末梢血流の変化、自律神経の状態、自覚症状の変化を明らかにすることを目的とし、健康知覚尺度の開発と指先マッサージによる変化を明らかにした。</p> <p>1. 3年生を対象とした室谷先生の講義内容 日本フットケア協会師範の室谷先生に3コマの演習を担当していただき、末梢血流を改善するためのマッサージと爪切りの方法、仰臥位の際に筋肉の緊張をゆるめるバスタオルのおき方を体験した。30年1月からの実習で重症な患者さんのケアに取り入れて成果をあげている。</p> <p>2. 看護科学学会学術集会での成果報告 平成28年度の実験結果を解析し、女子大学生11名を対象にした指先マッサージ+爪切り、仰臥位のバスタオルのおき方と自律神経、健康知覚の変化を報告した。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>3. 健康知覚尺度の開発 平成29年度に、保健福祉学部看護学科1年生～4年生、栄養学科3年生、4年生のうち研究協力が得られた119名を対象に、健康知覚および冷え性の有無、生活状況についての自記式質問紙を用いて無記名調査を行った。健康知覚に関する15項目の質問項目が、血流の流れを表す尺度として成り立つかどうかについて、探索的因子分析を用いて検証した。その結果、1項目を削除し14項目の3因子二次因子モデルの信頼性と妥当性が確認された。</p> <p>4. 末梢血流量の解析 平成29年12月から平成30年3月にかけて、10名の看護学科学生を対象に、指先マッサージ前後の末梢血流量と自律神経、健康知覚の変化を確認した。末梢血流量は11名中9名の画像解析が可能で、3月までに2名の解析が完了している。</p> <p>現在、データ解析、まとめ投稿論文作成をしているところである。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3年生を対象とした演習内容の講義資料 2. 看護科学学会抄録／ポスター内容 3. 健康知覚尺度の作成 4. 末梢血流解析